

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第 3 2 回）の審議要旨

- 1 日 時 令和 4 年 7 月 2 0 日（水） 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
- 2 場 所 県庁 共用第 4 会議室
- 3 出席者 山田委員長、岡藤委員、木村委員、中島委員、吉村委員
(委員長以外 5 0 音順)

《内 容》

I 委員長選出

委員の互選により、山田委員を委員長に選出

II 審議事項

令和 3 年度における業務の実績に関する評価について

令和 3 年度における財務諸表等について

→ 資料 1 ~ 7 及び補足資料 1・2 により、事務局・法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○センター

＜県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上について＞

- 大項目第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上について、何をもって質が向上したと考えたらよいか。設定目標の達成をもって質が向上したと考えてよいか。
- 評価については、客観性を確保するため、ある程度指標化することにより行っている。センターの活動が企業の利益につながったか実証することは難しいが、今後の課題として取り組んでいきたい。

＜技術相談について＞

- 技術相談について、積極的に相談を受けるような取組は行っているか。
- 研究会や講習会を積極的に行い、それらを通じて、企業ニーズを吸い上げている。
- 企業の問題解決のために、どのように相談を受けるかというところが一番大事である。例えば、出前講座や窓口相談など、相談しやすい窓口があるとよい。

＜地域課題解決への取組について＞

- 地域課題解決への取組について、センターはどのような役割を担っているか。
- コーディネータが企業を訪問して、地域課題を吸い上げ、課題解決を図っている。
- コーディネータがそのような役割を果たすことは大変重要なので、取組を更に発展させ、山口県全体の地域課題の解決へつなげてほしい。

<オリジナル石鹼の開発について>

- オリジナル石鹼の開発について、きっかけと取組の流れを教えてください。
- 企業からオリジナルのお土産物を作りたいという相談があり、共同開発という形で商品の企画から一緒に考えた。センターがシリコン型を作成し、企業の方で石鹼の成形、包装、販売をしている。また、石鹼の生産は、企業の従業員が行うだけでなく、企業内の障害者作業所の方々にもお願いをしている。
- 非常に面白い事例であり、そのような事例をもっと紹介していけば、同様の取組が増えていくのではないかと。

<提案公募型事業について>

- 提案公募型事業とは、どのような事業か。
- センターと企業が連携するなどして、国等の資金を獲得して実施する研究事業である。

<利用者を増やすための新たな取組について>

- センターの役割を知らない方にいかにも利用してもらうかがとても大切である。センターを知ってもらい、多くの方に利用してもらうための新しい取組について、何か考えがあるか。
- 機器の利用方法やセンターの取組をインターネット上で公開するというところに新たに取り組んでおり、このような取組を中心に行っていきたい。

<評価の概要に関する資料について>

- 件数的なものだけではなく、どのような産業への支援が多いのかや、今後どのような産業を支援のターゲットとしていくのかというところが明確にされると、資料として非常に分かりやすくよい。また、設備の稼働率についても記載されてあるとよい。
- ご指摘の点は承ったので、どのように対応できるか今後検討していく。
- 今後どのような産業を重点的に支援していくかということについては、様々なニーズがあるのでそれに対応していく必要がある。
- 設備の稼働率については、利用件数や利用時間についてもデータを持っている。それらを分析しながら、設備の更新等も行っているため、評価委員会の中でも示していきたい。

<地域との連携について>

- 簡単な作業であれば、就労施設にお願いするなど、地域と連携して取組を行うことで地域の活性化につながるとよい。
- 検討していきたい。

<やまぐち・桜酵母を使用したクラフトビールについて>

- センターが支援して商品化されたものなので、もう少し販売経路があるとよいがいかがか。
- 生産量が少ないと聞いているが、しっかりPRしていきたい。

<子ども向けのイベントについて>

- 昨年の評価委員会において、子どもたちに産業や技術に興味を持ってもらえたらというお話をしたところ、今年イベントを開催するということで嬉しく思う。
- 8月20日に200人規模で開催する予定である。また、今年度既に4校の小学校の見学を実施しており、後半にも2校の小学校の見学を予定している。

<職員の職能開発について>

- イノベーションの推進に伴い、センターへの相談内容もレベルが上がってくるのが想定されるが、それに対応するために、職員の職能開発について検討していることがあるか。
- 職員の能力アップを図るためには、学位の取得も含め、大学で勉強することが必要だと考えているが、学費の問題もある。センターで一部補助するということも含めて今後検討していきたい。
- 大学側も仕組みを作り、入学しやすい環境を作っていく必要があると考えているので、引き続き協議させてもらいたい。

<地域資源を活用した商品化について>

- 県内には多くの温泉があるが、例えば、温泉成分を活用した取組などは可能か。
- 鯨の油を使用した商品化の事例もあり、相談してほしい。

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。

《各委員了承》